

2014.07.28-2 どんがめ会、天草郡苓北町富岡城公園



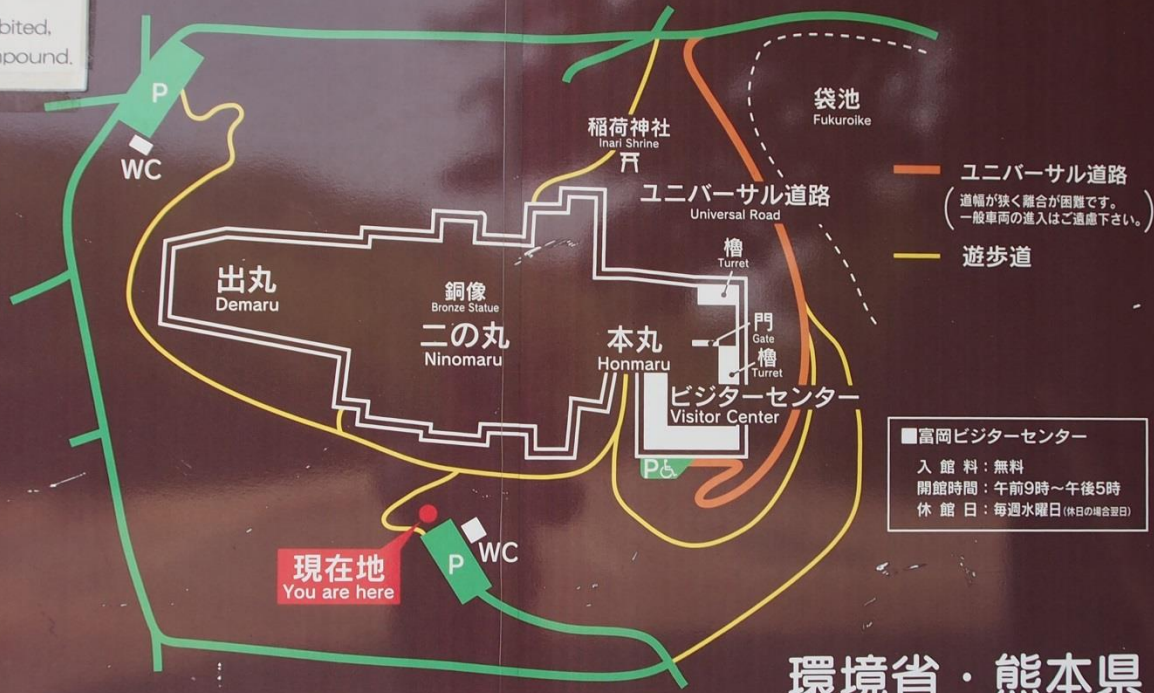


富岡城食堂 TEL 35-2368

富岡城公園案内図

保護区につき公園内

Smoking is prohibited,
in the castle compound.



環境省・熊本県



公園はみんなの施設です。故意に傷つけたり、破損した場合には法律により処罰されます。



公園内への車両の進入は禁止します。



ゴミは持ち帰りましょう。



ペットの散歩中によるフンは飼い主が責任をもって処理しましょう。

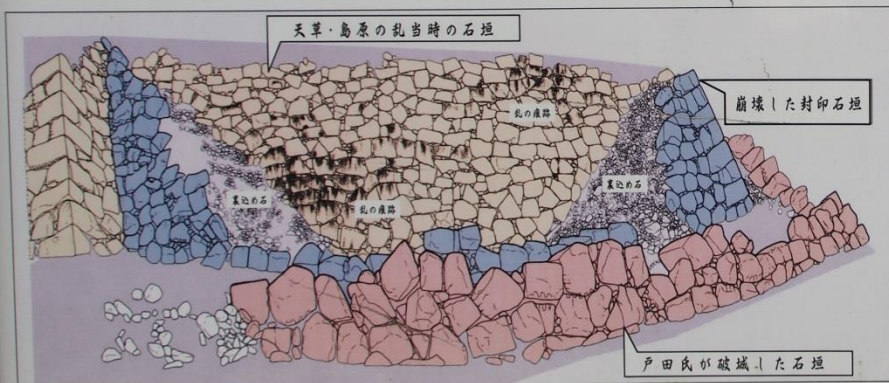
本公園は雲仙天草国立公園の区域内です。快適な環境を保つため定期的に清掃作業を実施しています。施設を利用される皆様方のマナーとご協力をよろしくお願いいたします。



富岡城 二の丸石垣

天草は、慶長五年（一六〇〇年）間ヶ原の戦いの後、唐津の寺沢玄高の領地となりました。寺沢氏は天草統治のため慶長七年（一六〇二年）から富岡城を築きました。寺沢氏の支配時代の寛永十四年（一六三七）年に天草島原の乱が勃発し、富岡城は一揆軍から攻撃を受けましたが、寺沢氏の必死の守りによって落城はまぬがれました。天草・島原の乱後、山崎家治の領地となりました。この時、幕府は資金を与えて富岡城の修復を命じ、約三年をかけて新たに大手門や百間土手を築き大修復を行いました。その後、鈴木代官の天領時代を経て、戸田忠昌支配の寛文十年（一六七〇年）、当地に城は必要ないということで富岡城は破城されました。町では、富岡城の復元整備の際、西側の石垣部分で三重の石垣が発掘され、寺沢氏、山崎氏の築いた石垣を確認しました。一番奥の石垣が寺沢氏の築いた石垣で、一揆軍との攻防戦の跡が石垣表面に残っております。二番目の石垣は、この石垣を隠すために築造されたものらしく、途中で壊れたと考えられます。手前の石垣は、天草・島原の乱後の領主である山崎氏が城の修復を行った際に築いたものです。このように、富岡城の石垣は三重の構造となっており、その時代の歴史を垣間見ることができ大変貴重なものです。

苓 北 町
 苓北町教育委員会



富岡城 二の丸石垣

天草は、慶長五年（一六〇〇年）関ヶ原の戦いの後、唐津の寺沢玄高の領地となりました。寺沢氏は天草統治のため慶長七年（一六〇二年）から富岡城を築きました。

寺沢氏の支配時代の寛永十四年（一六三七年）に天草・島原の乱が勃発し、富岡城は一揆軍から攻撃を受けましたが、寺沢氏の必死の守りによって落城はまぬがれました。

天草・島原の乱後、山崎家治の領地となりました。この時、幕府は資金を与えて富岡城の修復を命じ、約三年をかけて新たに大手門や百間土手を築き大修復を行いました。

その後、鈴木代官の天領時代を経て、戸田忠昌支配の寛文十年（一六七〇年）に、当地に城は必要ないということで富岡城は破城されました。

町では、富岡城の復元整備の際、西側の石垣部分で三重の石垣が発掘され、寺沢氏、山崎氏の築いた石垣を確認しました。

一番奥の石垣が寺沢氏の築いた石垣で、一揆軍との攻防戦の跡が石垣表面に残っております。二番目の石垣は、この石垣を隠すために急造されたものらしく、途中で壊れたと考えられます。

手前の石垣は、天草・島原の乱後の領主である

山崎氏が城の修復を行った際に築いたものです。このように、富岡城の石垣は三重の構造となっており、その時代の歴史を垣間見ることが出来る大変貴重なものです。





富岡城跡案内図



■ 富岡城跡について

富岡城は、慶長6年(1601年)に天草の領主となった肥前唐津藩の寺沢廣高によって築かれました。

その後、山崎家治の私領時代、鈴木重成・重辰代官の天領時代を経て、戸田忠昌の私領時代に、城が壊されました。それ以後は、明治まで天領として三の丸に代官役所が置かれました。

富岡城は、城歴のなかで、特筆すべき事があります。寛永14年(1637年)に起こった『島原の乱』(天草・島原の乱)に巻き込まれ、幕府側の拠点として、一揆勢の攻撃目標になったのです。

唐津藩の必死の守りにより落城しなかったため、一揆勢は、芥北町坂瀬川から船で原城へ向かうことになりました。この事が結果として乱の早期終結に繋がり、その後の徳川政権の安定に大きく寄与する事となったと思われます。

乱の鎮圧後、築城の名手と謳われた山崎氏が、天草へ送り込まれ、多額の資金を与えられ城の大規模修理と縄張り拡大が行われます。

この時期、幕府は海外列強の侵略を恐れ、鎖国政策を進めておりました。そのため、幕府は外洋に面した富岡城を整備し、万が一、海外列強が攻めてきたときの『国際戦線の上の城』として位置付けていたのではないのでしょうか。

時代が降った寛文10年(1670年)に戸田氏により富岡城は破城されます。この時期になると、徳川政権は完全に安定し、外交面での危機も回避され、海外に目を向けた富岡城の必要性が失われますし、また天草の平和の象徴としての施策であったとも推察されます。

戸田氏の破城には、幕府からも示唆があったものと思われます。事実『富岡城破城の噂(戸田文書)』には、「如何なる幕府政策の変化に因りてか、天草に在る僅か7年、折角再築せし城郭をも是を毀ちて関東に復帰する」との記述があります。因みに、富岡城を破城した戸田忠昌は、後に老中に就任しております。

富岡城の城としての役割は約70年ですが、破城後は、三の丸に代官所が設置され、幕末まで天草の行政の中心としての役割を果たしました。











Traditional Japanese architecture with a tiled roof and white walls, situated on a hillside.

Decorative lattice fence or railing along the top of the stone wall.

車両進入禁止 (No Vehicle Entry)

Yellow triangular warning sign with a black silhouette of a person walking, indicating a pedestrian crossing.